高齢者コミュニティを活性化する enabler としての コミュニケーションアプライアンス

○相沢 直人¹, 平沢 尚毅¹, 辛島 光彦², 細田 彰一³
¹小樽商科大学, ²東海大学, ³昭和女子大学

Communication Appliance as Enabler for Energizing the Elderly Communities
Naoto Aizawa¹, Naotake Hirasawa¹, Mitsuhiro Karashima², Shouichi Hosoda³
¹Otaru University of Commerce, ²Tokai University, ³Showa Women's University

1. はじめに

今日、多くの情報機器が普及している。しかし、そのような情報機器はほとんどの高齢者には使えない。特に、携帯電話や E メールといった対人コミュニケーションに関するものはほとんど使われていない。一方で、高齢者はそのような機器を使いたいという要求を持っている³⁾⁴⁾。インフォーマルなコミュニティでのコミュニケーションを促進するのにコミュニケーションアプライアンスが重要である。そこで、本研究では高齢者のためのコミュニケーションアプライアンスの要件分析をし、そのコンセプトプロトタイプを開発することを目的とした。

2. 方法

まず、高齢者のコミュニケーション環境を理解するためにアンケート調査を行った。そのアンケート調査の回答結果に基づき、インタビュー調査を行った。調査は、以下のような手順で行った。

- 1) 高齢者向け学習施設でのアンケート調査
- 対象者は、高齢者向け学習施設に通う 60 歳以上の高齢者である。
  - 47 名の回答データを得ることが出来た。

表 1 回答者の内訳

年代	人数
60～70 歳	18 人
71～80 歳	22 人
81～90 歳	5 人
91 歳以上	1 人

- 調査は、日常コミュニケーションおよびコミュニケーションツール、情報機器を焦点に行った。
- 2) アンケート調査結果に基づく、基本アイデアの導出

- 3) 基本アイデアに基づく、コンセプトの考案
4) コンセプトの検証のための、インタビュー調査

- 対象者は、アンケート調査を受けた中から 4 人、それとは別に 60 歳以上の 3 名の計 7 名である。
- コンセプトの検証と並行して、対象者の家族構成、家庭内外のコミュニケーション、コミュニケーションツール及びその利用状況について尋ねた。

3. 調査結果

調査 1)、2)、3) 及び 4) から高齢者のコミュニケーションに関して次のような点が明らかになった。

- 高齢者のコミュニケーションは基本的に受信が中心である。
- 高齢者は特別な場合がない限り、自ら発信しない。
- 高齢者は近所の親しい人と通りすがりに頻繁におしゃべりをする。
- パソコンにはあまり悪い印象は無いが、携帯電話への印象は全体的に良くない。
- 男性は施設内での友人とあまり親しくないが、女性は施設内の友人と親しくして日常的に集まって食事に行く。

インタビュー調査結果から、コンセプトモデルに関してとりわけ重要な要求事項を抽出することが出来た。

- 通信は受信が中心となるべきである。
- 手書き入力による送信及び定型文の送信が出来るべきである。
- ペン入力デバイスが有効である。
- 送受信記録は、半無制限に記録しておくべきである。
- 携帯電話やパソコンのメールを受信できるべきである。

これらの点から、シームレスコミュニケー

図1：Eメール受信というタスクにおける操作ステップ例

ションが可能なタブレット型アプライアンスの機能プロトタイプのコセプトを導いた。

4. コセプトモデル

上記の要件として、開発するコセプトモデルの基本的な機能を導出した。以下に、その基本的な機能を挙げる。

- ①. パソコンおよび携帯電話にある電子メール送受信システムのモードやセッションを可能な限り削減することができる。
- ②. 送信者を容易に認知することができる。
- ③. 誰かが送信した情報を、生活文脈の中で、無理なく、受信し、認知し、共有できる。
- ④. 受信した情報はログとして記録され、後でスムーズに検索できる。

上記の基本的な機能①についての具体例を挙げると、Eメール受信というタスクにおいて、現行の携帯電話での操作ステップよりこのコセプトモデルでの操作ステップでは3ステップ少なくすることが出来た（図1参照）。

5. 結論

今後、さらにこのコセプトモデルのプロ

トタイプを分析し詳細化していく予定である。その後、このアプライアンスの高齢者のコミュニティにおけるコミュニケーション促進の有効性を検証する必要がある。

参考文献

- 1) Naotake Hirasawa (2003), New Interaction Concept toward Reestablishing the Human Bonds in Daily Life
- 2) 渡邊琢美・伊東昌子『温かいコミュニケーションー「つながり感通信」の誕生ー』、共立出版、2003
- 3) <http://www.tu-ka.co.jp/news/release/041018.html>
- 4) <http://www.itmedia.co.jp/mobile/articles/0411/26/news084.html>

謝辞

本研究プロジェクトは文部科学省により支援された札幌 IT カロツツェリアプロジェクトにて実施された。